

Claude 実践入門

業務で使う生成AIの選び方と活用法

経営者・管理職・実務担当者の皆様へ

● 本日のゴール

持ち帰っていただく3つのこと

01

Claudeが選ばれる理由

数ある生成AIの中で、なぜ今Claudeが業務利用で選ばれているのかを理解する

02

活用イメージの具体化

自社業務のどこにClaudeを組み込めるか具体的なイメージを持つ

03

実行ステップの把握

明日から導入を進めるための具体的な手順を把握する

PART 1

生成AIの現在地

業務で使うなら何を基準に選ぶか

● 主要な生成AIは3社に集約

業務利用される代表的なサービス

OpenAI

ChatGPT

知名度が最も高く、
汎用性に優れる

Google

Gemini

Google Workspaceとの
統合に強み

Anthropic

Claude

業務文書処理と安全性で
評価が高い

「どれも同じ」ではなく、用途に応じて選ぶ時代に

● 業務利用で重視すべき5つの観点

個人で使う基準とは別物です



情報の信頼性

誤った情報を断定的に出力しないか



データの取り扱い

入力した機密情報が学習に使われないか



長文処理能力

契約書・マニュアルを一括で扱えるか



既存システム連携

Slack・Google Drive等と接続できるか



コンプライアンス

HIPAA、SOC 2等の基準を満たすか

この5つの基準で評価したとき、現時点でClaudeが最も総合点が高い

PART 2

Anthropicという会社

Claudeを開発する企業の素性

● Anthropic 概要

2026年4月時点

設立

2021年(米サンフランシスコ)

創業者

Dario Amodei、 Daniela Amodei (元OpenAI幹部)

法人形態

公益法人 (Public Benefit Corporation)

評価額

約3,800億ドル (2026年2月のシリーズGで300億ドル調達)

顧客層

米Fortune誌が選ぶ世界最大手10社のうち8社が採用

● なぜ公益法人なのか

「儲かれば何でも」ではない構造



株主利益だけでなく、社会的使命の達成を
法律で義務付けられた法人形態

何を意味するか

- ✓ 「速く出すこと」優先で安全性が後回しになる構造ではない
- ✓ 金融・医療・行政など、規制の厳しい分野での採用実績が豊富
- ✓ 国内でも**伊藤忠テクノソリューションズ**が2026年4月に正規リセラー契約を締結

● Constitutional AI / 憲法AI

Anthropic独自の安全性技術

仕組み



AI自身に**倫理規範**を内蔵させ、
不適切な応答を自ら避ける設計

従来型AI vs Claude

従来型AI

出力後にフィルタで弾く

Claude

そもそも問題のある回答を生成しにくい

業務上の意味: 炎上リスクの低さ ・ ハルシネーション(虚偽回答)の少なさ

PART 3

Claudeが選ばれる5つの理由

業務利用で評価される具体的な強み

● 理由 1: 圧倒的な長文処理能力

コンテキストウィンドウ = 一度に読める文章量



業務での活用

- ✓ 100ページの契約書を一度に丸ごと読み込んで分析できる
- ✓ 数年分の議事録を一括で要約できる
- ✓ 長大なマニュアル・就業規則の改訂を、文脈を保ったまま依頼できる

● 理由 2: 日本語の自然さ・文書品質

実際に使うと最も体感する違い



論理構造が崩れにくい

長文でも一貫した構成を保つ



敬語・ビジネス文書の語法が自然

そのまま提案書に使える品質



「空虚な文章」になりにくい

中身のある具体的な記述ができる

「そのまま使える品質」に最も近い —— 修正の手間が大幅に減る

● 理由 3: ハルシネーション(虚偽回答)の少なさ

生成AI最大のリスクへの対応力

 生成AI最大のリスク = 「もっともらしいウソ」を自信満々に出力

Claudeの保守的な性格

- ✓ わからないことを「わからない」と答える率が高い
- ✓ 不確実な情報には留保(注釈)をつける
- ✓ 出典が不明な内容を断定しない

業務上の意味: 顧客への誤情報伝達リスクを大きく低減

● 理由 4: 製品ラインナップの充実

単なるチャットツールを超えた統合プラットフォーム



Claude.ai (チャット)

一般業務・文書作成・相談



Claude Code

プログラミング・システム開発



Claude Cowork

ドキュメント整理・作成など



Connectors / MCP

Slack・Google Drive等との連携

「文書作成」だけでなく「業務全体の自動化」までカバー

● 理由 5: セキュリティ・コンプライアンス

中小企業でも大企業基準のセキュリティを



SSO・SCIM対応

シングルサインオン、ユーザー一括管理



HIPAA・SOC 2準拠

医療・金融など規制業界の基準を満たす



学習データ除外

入力データをモデル学習に使用しない契約が可能



リージョン選択

データ保管場所を選択可能

中小企業だから関係ない、ではなく
この水準のセキュリティを安価に使える時代

PART 4

具体的な業務活用パターン

自社のどこに組み込めるかをイメージする